



子どもたちが元気で過ごすことがみんなの願いです

- どの子どもも、いじめの被害者にも加害者にもなり得ます。
- 人間関係のトラブルを回避し、プレッシャーをはねのけられるように育つことも大切です。
- 人の悪口を言わないなど、子どもの手本となるような姿勢を見せましょう。

いじめられていい理由などひとつもありません

いじめに関する間違った先入観

- 「うちの子は、いじめられるはずがない」
- 「うちの子は、いじめるはずがない」
- 「親子の信頼関係があるから、いじめられたら親に言ってくれるはずだ」
- 「いじめられるほうにも原因があると思う」

～子どもたちが変わった様子はありませんか？～

もし“いじめられているかも”と思ったら

- 家に帰って元気がない。(「ただいま」の声など) ・持ち物に落書きがある。 ・服が汚れている。
- 物をよこなくす。 ・食欲がない。 ・朝になると身体の不調を訴える。
- 弟、妹をいじめたり、親に反抗したりする。 ・顔や背中、腕など、体にあざがある。



かけがえのないわが子を守るために

- 子どもの気持ちを受け入れ、共感しましょう。
- 子どもに「最後まで守り抜く」ことを伝えましょう。
- 「いじめられる側にも理由がある」などの考えは絶対いけません。

解決に向けて

- ◆ 真の「心の居場所」となる家庭づくりに努めましょう。
 - 子どもが安らげる場にしましょう。
 - 子どもを温かく見守り、十分に目を配りましょう。
- ◆ 学校（先生・スクールカウンセラー等）に相談しましょう。
- ◆ 相談機関に相談しましょう。



もし“いじめをしているかも”と思ったら

- 買ってもしないものを持っている。 ・おこづかい以上のお金を使っている（持っている）。
- 言葉づかいが悪くなった。 ・反抗的な態度をとるようになった。

解決に向けて

- ◆ 子どもの小さなサインを見逃さず、しっかりと寄り添い、子どもの心を開くように努めましょう。
- ◆ 相手も悪いという考えは絶対いけません。
- ◆ 学校（先生・スクールカウンセラー等）に相談しましょう。

